ブンカザイルキッズ

ブンカザイルキッズとは

子どもたちが身近にある魅力を知ることで、「たかもり」を好きになってほしい。そんなお母さんの想いから取り組んでいる活動「ブンカザイルキッズ」があります。地域の歴史や文化がつまっている文化財を、親子が体験しながら楽しく学びます。

★教育委員会から

子どもたちが高森町を好きになることで、将来は地域に戻り、地域を支える人になってほしい。地域に戻らなかったとしても、町を応援してほしい。ブンカザイルキッズの活動を通して、子どもたちが地域を大切にする人材に育つことを目指しています。

木目込人形（兜）

たかもり

発行所
長野県下伊那郡高森町
下市田　高森町公民館
発行人
大洞利雄
☎35－9416
印刷所
龍共印刷株式会社

メンバー

メンバーの申し込みをした高森南・北小学校の児童と家族です。現在、35人がいます。可愛らしい保育園児が参加してくれることもあります。年度の初め頃にメンバーの募集をしています。

企画

子どもの一番近くにいて子どものことを一番知っているお母さんたちが、文化財を題材にして、活動を考えています。難しい、堅苦いといったイメージがある文化財を、体を動かし、感じながら、自然に興味が持てるように工夫をしています。

活動

平成30年度は、9回の活動をしました。その中のいくつかを紹介します。

6月30日　山吹　光明寺での座禅、廊下の雑巾がけ体験

観音堂の中に入って座り、雰囲気を感じながら説明を聞きました。町の天然記念物に指定されている黒松の幹に触って、大きさを感じます。

本堂では、座禅の体験をしました。メンバーは普段行わない姿勢に苦戦しながらも、背筋を伸ばして、呼吸を整えます。その後は、廊下の雑巾がけを体験して、長い廊下を元気いっぱい走り抜けました。

無…

7月15日　出原　土器や石器を探す発掘調査体験

今から約4,600年前の人たちが住んでいた跡である、千早原遺跡で行われている発掘調査の体験をしました。ジョレンや移植ゴテを使って、地面や調査用の穴を削っていきます。たくさんの土器や石器、黒曜石を発見しました。子どもたちは見つけた物を手に持って、目を輝かせます。どんぐりの粉を使った縄文時代風のホットケーキづくりや、石器を実際に使ってみる等、縄文時代の生活体験もしました。

11月17日　まるごと収穫祭での展示

まるごと収穫祭の中で行われる文化祭で、ブンカザイルキッズの活動紹介をしました。場所は中央公民館の大会議室です。4つの活動を模造紙にまとめて展示しました。大きな紙のどこに写真を貼り、絵を書くのかといった構成は、メンバーが考えました。文章も自分たちで書きます。飾りつけの際には盛り上がり、牛乳パックで作ったかぶとをかぶってはしゃぎます。カラフルで可愛らしい展示が完成しました。

テーマ

1 地域との繋がりを深める

文化財を大切に想い管理をしているカッコいい大人を知ります。ブンカザイルキッズと一緒に活動することを希望していただいた、2つの団体との企画を予定しています。

2 お母さん、お兄ちゃん・お姉ちゃんから学ぶ

時の駅で働く子育て中の女性職員が、トンボ玉づくり体験の講師に挑戦します。大学生から、町内にある文化財の素晴らしさを教えてもらいます。

3 新しい町の魅力を知る

町内から見つかった平安時代のお金「富寿神宝」のレプリカやホットケーキを作ります。

さいごに

ブンカザイルキッズでは、メンバーを募集しています。都合が良い日だけの参加もできます。ぜひ、お申し込みください。

松岡城秋の陣

◇◆◇ 平成31年度の活動 ◇◆◇

9回の活動を予定しています。つながりを深めることをテーマにしています。

□4月14日
吉田にあった城跡で、めずらしい古城桜のしおり作り

□6月
お寺で座禅、写経の体験

□7月27・28日
時の駅親子体験教室（富本銭、まが玉、飾りひも、土器、トンボ玉作り）

□8月
竹ノ内家住宅の板ぶき屋根や下市田学校の天井裏を見ます

□8月31日
武田信玄の「のろし」が豊丘村で上がるのを見て、松川町へリレーします

□10月
松岡城の合戦「松岡城秋の陣」

□1月13日
時の駅小正月飾り作り体験教室（うすときねを使った餅つきもします）

□2月
高森町から見つかった平安時代のお金のレプリカとホットケーキ作り

三面鏡

▼東日本大震災3月11日から8度目の春、今年も各地でチャリティーコンサートが開催された。「群青」を聴いて、多くの観客が涙した▼福島で生まれた感動の合唱曲「群青」は、福島県南相馬市立小高中学校平成24年度卒業生が作詞、同校教諭小田美樹先生が作曲した▼この曲が生まれたのは、福島第一原子力発電所から半径20㎞圏内に位置する南相馬市。震災後、全国に避難していた友達が原発事故で戻れないなど、たくさんの不安が生徒たちにのしかかり、心を痛め、歌が歌えなくなっていた▼ある日、みんながどこにいるのか、大きな日本地図に生徒の顔写真を貼り付けながら「遠いね」「でも、この地図の上の空は繋がっているね」など話しながら、詩づくりが始まった。子どもたちの日記や作文、他愛もないおしゃべりから、小田先生は子どもたちの想いを書き留めていき、それを繋ぎ合わせて「群青」が出来上がった▼「群青」とは小高中学校の生徒、教師、卒業生、保護者に至るまで、その色の名前を聞けば小高中学校を思い出すような絆の色であり、大切なキーワード▼コンサートパンフレットの小田先生の言葉「…この曲を作った当時はどうやったら心の傷は癒えるのかを考えていたような気がしますが、今は、癒えぬ傷を持ったままでも笑えて歌えることに気づいています。東日本大震災から丸8年。彼らはそれぞれの道で今を生きています。」

平成30年度 公民館活動を振り返って

編集部

部長 上沼 徹

平成30年度の活動を振り返るとともに、一言お礼申し上げます。

歴史ある「公民館報たかもり」の発行にあたりまして、編集部員の皆さまには町及び地域の事業や行事、時には住民のもとへ取材に足を運んでいただきありがとうございました。記事をまとめ原稿を仕上げる、文章を校正する等、慣れない活動でしたが皆が協力しながら館報の発行が出来ました。また、快く取材にご協力、ご対応いただきました関係者の皆さま、大変感謝申し上げます。

編集部の活動は、住民で構成された部員が、町や地域での公民館活動の様子を発信する、そこに暮らす個人の活動にスポットをあて紹介する等、まさに地域に根付いた「かわら版」の発行です。地域の事に関心を持ち、少しずつでも携わり知る、地味で面倒な活動であっても、何か大切で大きな役割を果たしていると感じています。

1年間大変お世話になりました。

視聴覚部

部長 林 勝朗

視聴覚部の事業を振り返り見てみると、飽きることなくこつこつと作品のコピーと整理をしておりました。まだこれからも続くでしょう。また文化祭にて好評を頂いているデジタルフォトカレンダーも、毎年大勢の老若男女の皆さんに足を運んでいただきました。ありがとうございました。

今、時代はデジタルが主流でデジカメやスマートフォンなどで簡単に写真が撮れるので、写真という物がより身近になった現在、視聴覚部がどのように情報提供出来るかこれからの課題と思います。良い方向に舵がとれるよう見極めて行きたいと思います。皆さんのご協力よろしくお願いします。1年間有り難うございました。

教養部

部長 宮下 誠

平成30年度の教養部の活動は、11月のまるごと収穫祭と同時開催した文化祭と1月に開催した成人式です。

文化祭においては、多くの団体の皆さんのご協力をいただき、中央公民館、福祉センター、役場駐車場のステージにおいて、展示発表や教養部員による貝ホルダー、プラ板、お手玉製作体験、ステージ発表が行われました。日頃の活動成果の発表の場として、両日とも多くの家族連れで賑わい盛大に開催することができました。

成人式は、式典、祝賀会、中学校校舎見学・クラス会が行われました。

大切な節目の行事の運営に携われ一緒に祝福することができ大変光栄でした。

平成最後の文化祭と成人式になりました。会場設営、前日準備、当日の運営まで至らぬ点があったと思いますがお許しをいただき、反省を今後の活動に繋げていただければと思います。

1年間ありがとうございました。

体育部

部長 木村 雅俊

平成30年度の体育部長としての任期を全うさせて頂きました。年間の様々な事業にご参加ご協力頂いた皆様には大変お世話になり有難うございました。

計画したスポーツ大会は天候にも恵まれ全て実施となりましたが、その後の反省会では分館毎の競技レベルの差を懸念する声や参加者確保に苦労されたご意見も上がり、運営の難しさを実感致しました。現在公民館ではより多くの方にスポーツを楽しんで貰おうと新競技の導入や活動内容の周知といった試みを始めております。

町のあらゆる行事は住民の皆様のご参加によって支えられていますが、昨今は個々の生活の多様化で地域への興味は薄らいでしまいがちです。しかしこれまで多くの方が携わられたことで出来た地域社会活動の下地は、町の大切な文化でもあり、今後自身を含む部員それぞれが経験を少しでも地元に生かして行けることを望みたいと存じます。

きらっ人 高森

アームレスリングに魅せられて 宮嶋由洋さん（吉田）

幼い頃からの野球少年。社会人となり、厳しい、頼もしい仕事の消防士となってからも野球を続けている宮嶋由洋さん。体を動かしていることが好き！と、2年ほど前から「卓上の格闘技」とも呼ばれているアームレスリングを始めました。アメリカやロシアではメジャーな競技でもあるアームレスリング（腕相撲）で下市田の道場に通い始めてパワー、スピード、テクニックを駆使して一瞬の勝負に挑むこの競技に魅せられたメンバーの一人です。

全国準優勝の腕

この道場は県内でも数少ないオールジャパンアームレスリング連盟（AJAF）に公認されており、県内外の大会にも積極的に出場しています。

大会は、審判の「GO！」の声で力をみなぎらせ「倒すか、倒されるか」が基本のルール。一見シンプルな競技に感じるが、そこに様々な駆け引きやテクニックが凝縮されていて「力があるから必ず勝てるわけでもなければ、体や腕が細いから負けるわけでもない」知れば知るほど奥が深い競技です。

昨年、栃木県で開かれた「オールジャパンアームレスリング選手権大会」では、各階級でメンバーが決勝まで進み健闘し、あと一歩の力及ばず準優勝でした。

今年は東京で開催される同大会をリベンジマッチと捉え、優勝を目標にトレーニングに励んでいます。

個人競技ではあるが、試合では相手を分析したり、声をかけたり、チームみんなで戦っていて、「たとえ一人で舞台に立っていても、仲間が側に居てくれる心強さがある」と話されていました。

ご家族皆さんで由洋さんの活躍に、笑顔で暖かく全面的に協力されている姿を見て、これからも益々精進されることを期待したいと思います。

平成30年度　公民館専門部活動内容

4月18日・19日	専門部初顔合わせ	
5月31日	公民館報609号発行	編集部
7月1日	ワンバウンドふらば～るバレー大会	体育部
	スローピッチソフトボール大会	体育部
7月31日	公民館報610号発行	編集部
9月30日	公民館報611号発行	編集部
11月17日・18日	文化祭	教養部
	手作り体験教室	教養部
	デジタルフォトカレンダー作成	視聴覚部・教養部
12月15日	公民館報612号発行	編集部
1月3日	成人式	教養部
1月31日	公民館報613号発行	編集部
2月3日	ペタンク大会	体育部
3月31日	公民館報614号発行	編集部
※通年	過去の映像資料のDVD化	視聴覚部

論説

新食材～食用サボテン～

愛知県春日井市で食用サボテンを育てている農家があります。

食用サボテンは、腸内細菌のバランスをよくしてくれる体に良い食材です。本場メキシコでは、成人病の予防になるとして昔から食べられています。

栽培は、親木を植え付けて2日に1度程度の水やりで、親木から出てきた新葉は20㎝くらいに育ったところで収穫します。農薬も登録がないので、ほぼ無農薬栽培になります。土は山砂、赤玉土、牛糞堆肥、ピートモス、くん炭で地面とは隔離させています。1aの収穫量は1年間600kgから1t程度です。

種類は「バーバンクウチワサボテン」と「ノパル（オプンチア・ノパレチア属）」があります。露地栽培だと肉厚で表皮も硬くなり食感もあまりよくありません。しかし、ハウス栽培することで表皮が柔らかくておいしいサボテンに育ちます。特に、ノパル（品種名）はメキシコのマヤという地域で古くから野菜として食べられていた食用のサボテンです。アロエのような苦味はまったくなく、トゲを取る下処理が必要ですが、取った状態なら生でも食べられます。特徴は、糸を引くほどのネバネバ成分で、癖のない爽やかな酸味とシャキシャキした食感です。

トゲの取り方は、ピーラー（ギザギザした刃のついたトマト用が使い勝手がいい）でそぎ取り、サボテン特有の細かなトゲを取り除きます。

食べ方としては、ピーラーでスライス、おろしショウガと麺つゆの和え物、キムチに入れてトロトロキムチにすることもできます。また、鍋に入れてもトロトロ鍋として食べられるそうです。生産者は「和え物がサボテンの特徴を一番伝えられる食べ方」だそうです。

小売販売もしており、100g150円前後で、飲食店や地元学校給食にも提供しています。スーパーフード「食用サボテン」の普及に期待する農家や消費者が増えているそうです。

元気に育ってくれてありがとう

山吹天伯峡ほたる幼虫放流会

3月5日に、山吹天伯峡（上平と駒場の間を流れる寺沢川周辺）で、ゲンジボタルの幼虫とカワニナを放流しました。

天伯峡ほたる管理委員会を中心に、北小学校4年生と山吹保育園さくら組（年長）の皆さんが参加しました。平澤区長より「幼虫のお世話をしてくれてありがとう。6月のほたる祭りには地域の人と一緒に楽しみましょう」と挨拶がありました。

毎年、北小4年生は授業で幼虫の一部を管理委員から預かり、昨年10月から週2回の水替えと観察をして、ほたるについて勉強したことを発表してくれました。大変だったことは、重たい水を運ぶことだったと振り返っていました。水が綺麗でないと育てられないこと、冬の水替えは寒く冷たくて大変だったこと、「きれいなほたるだね」と言ってもらえるように頑張ったことも感想として発表してくれました。

育てた幼虫やカワニナを紙コップに入れてもらい、ほたる専用水路に皆で放ちました。参加した子ども達からは「大きくなって！」「きれいなほたるに育ってね」「カワニナ食べられた！」という声があちらこちらで聞かれました。

きれいなホタルに育ってな

天伯峡ほたる管理委員会は、上平と駒場の住民33人で組織され、年4回草刈、水路の維持管理をしています。昨年の6月下旬に母ほたるを採取、交配させ繁殖させています。

ほたる管理委員長からは「6月は、夜の見回りをしてほたるの発生数をチェックしています。ほたる祭りには多くの方に観てもらいたい」また、「環境の変化なのか、餌の確保にとても苦労しています。5～6年前から少なくなっており、町内の方にも協力してもらっている」と現状を話してくださいました。

高森北小学校小林校長は「これからも観察を続けてほしい。6年生になったら、ほたる太鼓でお祭りを盛り上げてください。地域の伝統活動を次の学年にも繋げてほしい」と話してくださいました。

6月のほたる祭り、多くの方に足を運んでもらいたいです。

地域と学校が協働して子どもを育むコミュニティスクール

高森町公民館

高森町の小・中学校では、名称のとおり特色ある内容でコミュニティスクール（以下CSと略）を行っています。

北小学校のCSの中心事業である「ほたる学習」は、地元の「天伯峡ほたる管理委員会」と連携し、4年生が教室でほたるの幼虫を飼育し、3月には天伯峡へ放流しています。またほたる祭りへ参加し、ほたる太鼓や歌を発表しており、幼虫の飼育や太鼓指導など地域の方と一緒に活動を行うことで、子ども達の意識が高まり継続性が生まれています。

南小学校は「市田柿学習」を中心に、柿の木の剪定、柿の皮むきなどに、栽培農家さんや多くの町民が参加していただき、児童に指導しながら一緒に市田柿を作っています。高森町の特産である「市田柿」を自ら作ることにより、地域を知ることができます。また書初めや毛筆習字指導、ミシン指導などは町内団体や多くの個人の方々がボランティアで指導をしてくれています。

中学校では、町や企業、施設などと連携し、職場体験や柿取り体験など地域と触れ合う活動を行っています。

今後は各校の高森町独自の学習は継続しながら、児童・生徒に地域や文化財、伝統芸能を知ってもらうような取り組みを、町民と学校と連携し新たな学習を取り入れていきたいと思います。

各校のコミュニティスクールの内容や活動を今後さらに充実するためには、「できることを、できるときに、できる人が取り組む」ことや「学校も地域もCSの良さを感じる（ウィンウィンの関係）」ことが大事だと考えています。

ぜひ、多くの方のコミュニティスクールへの参加をお願いいたします。

地域の皆さんとのつながり

信州たかもり 熱中小学校

「熱中運動会」が開催される

2月17日、高森町町民体育館において、信州たかもり熱中小学校の運動会が、紅白のチームに分かれて開催されました。この学校は、「もう一度7歳の目で世界を…」を合言葉に、昨年4月、アグリ交流センター（旧蘭植物園）を拠点に、全国で9番目に開校した「大人の社会塾」で、現在アメリカのシアトルを含む13校がそれぞれの地域で活動を展開しています。

運動会が開催されるのは今回が初めてで、生徒の中から有志が集まり実行委員会が結成され、平均年齢が約60歳であることも考慮しながら事務局と協力して競技内容やルール、競技に使う小物などを手作りしたそうです。生徒のアイデアで「もうすぐ春ですね～ちょっと動いてみません会～」と題して、キャンディーズのヒット曲「春一番」をモチーフに、仲間集めは「あなたがいて、わたしがいて」、サイコロゲームは「ハートのエースが出てこない」、障害物リレーは「ラッキーチャンスを逃がさないで」、と競技名にも工夫がされていました。

運動会全体の指導には、年間160件の運動会をプロデュースする運動会五つ星マイスター、NPO法人ジャパンスポーツコミュニケーションズの代表理事米司隆明先生が担当され、「運動会は日本独自の文化です。海外で運動会を実施すると個人がバラバラで勝負に徹して行動してしまいます。ところが、回数を重ねると、協力する事、負けても相手を讃えるという行為が自然とできるようになるんです。」とお話をされていました。日本人のいざという時に協力し合う精神は「運動会」によって育まれていたのかもしれませんね。

最終結果は紅組の勝ちとなりましたが、「すごく楽しかった」「知らない人と仲よくなれた」「競技が工夫されていて良かった」と、どの方も笑顔がみられたのが印象的でした。

じゃんけんゲーム　優勝者のウィニングラン

「アン・ドゥ・トロア」でバブルボール相撲

無欲の闘志溢れる
高森町内ペタンク大会

2月3日町内分館対抗ペタンク大会が行われました。ニュースポーツと呼ばれて、従来の勝敗にこだわったハードなスポーツ競技に対して、レクリエーションとして気軽に楽しむことを目的に始まった種目のひとつです。ルールは比較的簡単で、年齢や性別に関わらず対等に戦え、運動量は少なくても集中力と勘を働かせて真剣に取り組めるという利点を備えたスポーツでもあります。「ニュー」とはいえ歴史は古く1910年に南フランスで生まれて世界中に普及しました。

高森町でも分館対抗ペタンク大会が始まって、15年あまりを経ています。

今年はインフルエンザが大流行している時期での開催でしたので、参加者はすべて会場入口でマスクを着用して競技を開始しました。競技者は小学校高学年以上でしたが、大人顔負けテクニックを披露する選手もいました。

見学者の方にお話を伺うと、「ゲームは見ていて楽しいし、最初に大量に点数を取られてもどんでん返しの逆転劇も起こって最後まで勝敗が分からない、怪我もなく、子どもや高齢者でも安心して参加できる」とのことでした。

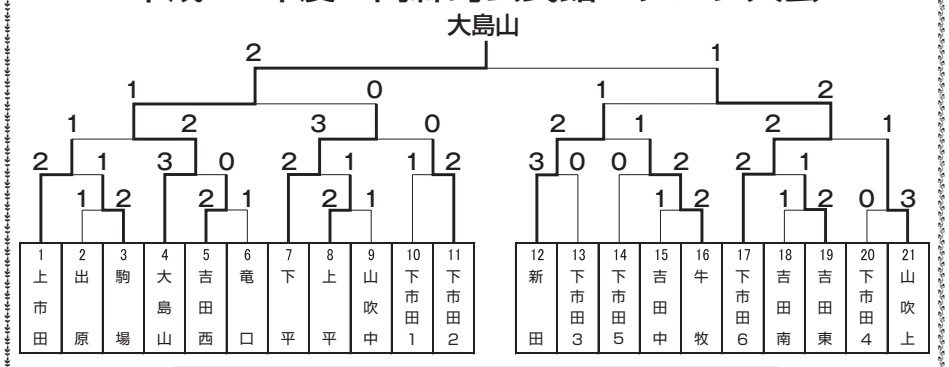
勝つための秘訣を語る選手は「無欲の境地で臨むこと」しかし「投げる瞬間には、思わず狙ってしまう」よって「思ったところに投げられない」とペタンク競技の極意と難しさを語ってくれました。

高森ドームという恵まれた施設での年1回の親睦対抗戦が和気あいあいと行われた後、それぞれの分館へ戻って選手の健闘をたたえての慰労会も賑やかに行われたことでしょう。

広いドームの中に、多くの町民が集い、熱い闘志和やかな笑いの中に、女性の姿が少なかったことが少し残念な気がしました。

狙いを定めて逆転？！

平成30年度　高森町公民館ペタンク大会



優勝：大島山　準優勝：下市田6　3位：下平、新田

～笑うことは「元気」につながる～
高森町シニア大学・30年度閉校式

高森町シニア大学閉校式が2月21日に行われました。

郷土・歴史班では、激動の幕末・明治時代を力強く生きた先人「今村清之助（せいのすけ）と今村信行（のぶみち）」を描いた書籍「高森の人」について学びました。

園芸班では、「ペチュニアの育種の取組みについて」各自で交配した花から種を採り、花を咲かせたことや、短歌班では「今年度、多くの方が入選・歌会始の佳作になった方もおり喜びの大きな1年になった」と紹介がありました。

この他にも、ゲートボール、手芸・折紙、童謡・唱歌、川柳、マレットゴルフ、健康・運動班と報告がありました。

「楽しくできた。認知症予防につながる」と感想を発表しました。

終わりに「楽しく学び、楽しく生きる」皆さんの頑張り、学んだことを生かして地域、子どもに反映させてほしい！と講評がありました。

続いて「笑っていきいき人生を」と題して、飯田市の多目的スタジオ泰平（たいへい）主催・公認運動指導士、宮下泰広さんによる楽しくて元気になれる体操を全員で体験しました。

いくつか体験した1つに、一人ジャンケンで右手が勝ち、左が負け。次は右が負け、左が勝ちという手遊びは、回数を重ねていくごとに、めちゃくちゃになっていきます。宮下さんの「うまくいかんら。片手がとまっとるに！」とできないもどかしさで、大きな笑いがでます。

また「笑う効果」は、血液のめぐりを良くする、ストレス発散、認知症予防、免疫力を高めるなどいいこと尽くめでした。宮下さんは、同じ笑いにも「面白い」と「楽しい」の違いがあることに気付き、60歳から起業され、現在教室には多くの観光客が訪れるほど人気があるそうです。

最後に「楽しくて笑うと生活の質が変わる。「欲」生きる欲を持つこと。元気で長生きを…」参加された方からは「楽しい」と感想を話してくれました。

笑っていきいき人生を

まちのとしょかん

目からウロコの講演と好評！
忙しい大人のための課題を解決する図書館活用術

3月10日、鳥取県立図書館の地域支援課課長の小林隆志さんをお招きして「図書館であなたの夢をかなえ、課題を解決する！」と題して講演を開催しました。

図書館といえば本を借りたり新聞を読んだりする場所…そんなイメージを持っている方が多いのではないでしょうか。実は図書館は他にも様々なサービスを提供する場所なのです。そのうちの一つが、お仕事応援、つまりビジネス支援です。

鳥取県立図書館では、市場規模の調査や企業情報、「○○という花は食べられるか」といった第6次産業に係わるものまで、利用者から寄せられる様々な質問に答え、課題の解決につなげる支援を積極的に行っています。自館の蔵書はもちろん、他館で所蔵する資料やインターネット上のデータベース等を活用し、解決に必要な様々な情報を提供するプロセスも説明してくれました。

時には、図書館の機能を知ってもらうため、図書館外で開催される研修会に職員が営業に出向くこともあるそうです。

実際に、ビジネス支援を受けて新たな農産物の栽培・商品化につながった事例や、開発した商品がグッドデザイン賞を受賞した事例もあり、そういった成功事例の発表の場として『図書館で夢を実現しました大賞』を開催しているそうです。

小林さんは、受賞者をモデルにしたオリジナル漫画を見ながら、図書館を活用して夢がどう実現していったのかをわかりやすく紹介してくれました。

参加者からは「図書館がすばらしい情報源だったのだと知りました。人生100年といわれる中、自分への情報網を広げ、人生をもっと豊かにしたい…」「今まで想像もしない図書館の活用術を教えていただき、目からウロコの1時間半でした」「今後ぜひ活用したい」など感想が寄せられました。

併せて行われた産業課・丸山真史さんによるミラノでの市田柿PR報告も「世界で市田柿ブームが起こるか…」と期待する声がありました。

緊張気味に本を受け取る保育園の年少児さん
セカンドブック・プレゼント

町内各保育園の年少児さんを対象に成長のお祝いと、家庭での読み聞かせ推進を目的に、町から絵本が贈られました。

各園で贈呈式が行われ、ボランティアグループ・ぐりとぐらの会員による読み聞かせを聞いた後で、個々に手渡されました。

【お知らせ】

①連休中の開館

月曜日と第1水曜日の定休日以外は開館しています。

②廃棄図書リユース

5月3日（金）
朝10時より
5日（日）
夕方4時まで
福祉センター和室にて